

令和2年
6月号

オトナのふるさと学習

月刊このへんだいすき

+Plus

作 セルジュ・タカハシ

記録や形には残らず、日々失われていく地域の記憶
いまさら人に聞けない「このへん」限定のジャンゴな話題あれこれ
3シーズン目突入。読めば読むほど、「このへんだいすき」に

いっぱい学ぶぞ!



掘れば出てくる地下資源。 「このへん」産の化石燃料は、 ウイスキー造りに欠かせない アレのことじゃないの?

Fキドキル



出てくる
地下資源

秋田県は地下資源の宝庫。
江戸時代から開発が進む鉱山に加え、
全国屈指の産出量を誇る八幡油田、
携帯から金属を取り出す都市鉱山も。

「このへん」
産の化石燃料

化石燃料を代表するのが石油や石炭。
人類のエネルギー源の9割を占める。
「このへん」にも埋蔵されているのが、
泥炭といわれる化石燃料の仲間。

ウイスキー
に欠かせない

スコッチで有名な英国のウイスキー。
香り付けの作業に欠かせないのが、
原料の麦をいぶすビートという燃料。
実はこのへんの化石燃料と同じ泥炭。

泥炭を知っていますか？
一万年も前の植物が堆積して
できた化石燃料で、「このへん」
では根っこと呼ばれてきました。
横手市大雄の田村地区の泥炭
は有名で、「田村根っこ」として
知られています。そのあたりの
田んぼを「メートル掘り下げ」
と色の違う地層が出てきます。
取り出して半年天日に干せば、
それだけで根っこのできあがり。
燃え方が穏やかで、ススさえ
気にしなければいい燃料だとか。
とくれば、国内最大の八幡油田
のように、わが家の地下に眠る
根っこを掘り当てて大もうけ。
そんな妄想はさておき、英国
のウイスキー造りには、ビート
という泥炭で麦をいぶす工程が
あって、独特な香りを移すため
に欠かせない作業だといえます。
根っこでウイスキーを造れば
大もうけ。昔もそう考えた人が
いたせいか、北海道の工場から
発注が来たこともあったとか。
しかし、この交渉はなぜ決裂。
このへん産の根っこビートを
使った国産ウイスキーの計画は、
あえなく幻と消えたのでした。



POINT

古くから知られ、利用されてきた「このへん」産の化石燃料、
根っこと呼ばれた泥炭は、ウイスキーの原料ビートと同じ？

